宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題（13）
－2021度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－

Issues in Education for the First-Year Student at UTSUNOMIYA KYOWA UNIV. (13)
－ Class Reports and the Results of a Questionnaire Survey －

松　田　勇　一
Yuichi MATSUDA

概要

本稿では、宇都宮共和大学における2021年度の初年次教育科目「基礎ゼミ」の授業報告と、本科目を受講した学生に対する意識調査の結果を示した。授業報告では、当該科目の目的、方法、概要を示した。意識調査では、大学生活、今後の勉強、基礎ゼミに大別し、各項目に関する質問とその回答結果を示した。

キーワード：初年次教育　基礎ゼミ　授業報告　意識調査

1　はじめに

本学では、2016年度より初年次教育科目として「基礎ゼミ」が開講され、松田（2017、2018、2019、2020、2021）ではその授業報告と意識調査の結果を示した。2019年12月から始まったパンデミックの中において、2020年度は一部の授業がオンラインによるものとなったが、2021年度は学期当初から対面授業を行うことになった。また、今年度から１年生全員にクロームブックを配布し、教材や提出物のデジタル化を進めることになった。本稿では、「基礎ゼミ」の授業報告と、本学における初年次教育の課題を提示することを目的とする。

2　授業概要

2021年度の基礎ゼミはシティライフ学部１年生の必修科目とし、大学生活を送るために必要なアカデミック・スキルを身に付けてもらうのが大きな役割である。本科目では、学生の出身校、性別等を考慮して７つのクラスを編成した。１クラスあたりの学生数は11～12名であり、各クラスに担当教員が１名配置された。また、秋学期にクラス再編を行い、ゼミ構成員、担当教員が替わるようにした。

2.1　目的

2021年度の基礎ゼミの目的は、(1)～(7)は昨年度と同様であるが、(8)(9)は2021年度新たに設けた項目である。

(1) 大学での学び方、学生生活の送り方を学ぶ。
(2) ２年次のゼミへ向けて、調査・研究の基礎を学ぶ。
(3) 卒業後の人生に目を向け、学生時代の過ごし方について考える。
(4) 週間日誌の作成を通して、自己管理能力、自立学習を身に付ける。
(5) 作文を通して、基本的な書く能力を習得する。
(6) 各種課題の口頭発表を通じて、プレゼンテーションの基礎を身に付ける。
(7) 合同講義を通じて、教科書の内容をより深く理解し、アカデミック・スキルを身に付ける。
(8) クロームブックを活用し、課題を電子データとして提出することができる。
(9) 学期末にパワーポイントを用いて、今後の研究について発表することができる。

2.2　授業の方法と内容

2021年度基礎ゼミは、受講者81名（日本人学生79名・留学生２名）を７クラスに分けた。各クラスには担当教員を配置し、授業時間、内容は７クラス全て統一した。そのため、毎回の授業前には、７人の担当教員が打ち合わせを行い、当日の流れや課題、提出物などを確認し合った。なお、秋学期にはクラスの再編を行った。

授業は、初年次教育のためのテキスト（川延他編2011）を用いて行った。基本的には教科書の内容に沿って進めたが、教科書の途中で全てのゼミ合同での講義や発表などを組み入れた。2020年度は新型コロナウイルスの影響により授業開始が遅れ、開始当初は対面授業ではなくZOOMによる遠隔授業を行ったが、2021年度は学期当初より対面授業を行った。また、2020年度はコロナウイルス感染予防のため、グループでの話し合いや共同作業なども控えていたが、2021年度は感染症対策を徹底しつつ、グループワークを再開することとした。さらに今年度は１年生全員にクロームブックを配布し、学内のICT教育を推進することとなった。その為、３回目の授業においてクロームブックについての説明会を合同で行った。授業の具体的な内容は以下の通りである。

学期	回	内容
春学期	1	テキスト第１章「さあ、はじめよう」
	2	テキスト第２章「勉強のリズムを作ろう」
	3	アカデミックスキル①クロームブックの使い方（高丸教員）
	4	学内研修（学生委員会）
	5	テキスト第３章「大学で学ぶということ」
	6	アカデミックスキル②ノートテイキング（松田教員）
	7	テキスト第４章「困ったことはありませんか」
	8	テキスト第５章「大学はワンダーランド」
	9	テキスト第６章「自分を守る、他人を守る」

春学期	10	テキスト第７章「キャンパスツアー」
	11	発表「キャンパス周辺の〇〇の場所」①（7 クラス合同）
	12	発表「キャンパス周辺の〇〇の場所」②（7 クラス合同）
	13	アカデミックスキル③レポートの書き方（松田教員）
	14	テキスト第８章「生活プランをどう立てるか」
	15	消費者カレッジ（学生委員会主催）
秋学期	16	クラス再編成・自己紹介・夏休みの課題発表
	17	テキスト第９章「卒業したらどうするか」
	18	キャリアガイダンス（就職委員会主催）
	19	テキスト第 10 章「生活と人生のデザイン」
	20	発表「夏休みの課題：私の〇〇場所」①（7 クラス合同）
	21	発表「夏休みの課題：私の〇〇場所」②（7 クラス合同）
	22	テキスト第 11 章「研究テーマを考える」
		大学祭ポスター展示（「夏休みの課題：私の〇〇場所」）
	23	テキスト第 12 章「研究を進める」
	24	テキスト第 13 章「研究報告をまとめる」
	25	テキスト第 14 章「プレゼンテーションとレポート」
	26	最終発表「これからの研究したいこと」（7 クラス合同・１人３分）
	27	最終発表「これからの研究したいこと」（7 クラス合同・１人３分）
	28	最終発表「これからの研究したいこと」（7 クラス合同・１人３分）
	29	予備日
	30	卒業研究発表会聴講（4 年生の卒業研究発表を聴講し評価する）

本科目では、これまでと同様に課題として週間日誌と作文を課し、２週間に１度指定の用紙に記入させて提出させた。クロームブック導入後は、電子データでの提出も検討されたが、日誌の形式等が定まらず今年度は見送ることとなった。週間日誌は、「新たに学んだこと・気づいたこと・疑問に思ったこと（100字）」、「週間報告（２週間で印象に残ったこと）200字」、「作文（200字）」とした。全ての項目で字数を設定したのは、字数による評価基準を明確にするためである。週間日誌の評価は、上記の３項目について、「９割以上記入している→２点」、「９割未満だが半分以上記入している→１点」、「半分以下、全く記入していない→０点」とした。また作文は、短い字数の作文を課すことにより書くことに対して慣れてもらうこと、また書くことによる自己分析を促すための措置である。2020年度までは、週間日誌や各種ワークシートは、２穴バインダーにポートフォリオとして学生に管理させたが、2021年度はクロームブックによるICT促進に伴い廃止した。しかしながら、結果として日誌やワークシートの電子化を進めることができず、今後の課題として残った。

2.3　成績評価

ポートフォリオ（週間日誌･作文）40％､テキストのワークシート40％､発表20％とした。なお、欠席は総合点からマイナスするという形（－欠席回数×３点）で成績評価に取り入れた。単位取得の為に各発表は必須とし､単位認定は出席２/３以上の者を対象とした。また、週間日誌と作文はクラス担当教員が提出、記入の確認を行った。

３　意識調査

3.1　調査概要

調査は、2021年度基礎ゼミの春学期、秋学期の共に最終回において実施した。調査した学生数は、春学期は日本人学生74名、留学生２名、秋学期は日本人学生73名、留学生２名であった。調査した学生数の違いは、出欠の違いによるものである。

調査方法は、日本語で調査票を作成し、選択肢法、５段階評定法、自由回答法で回答させた。調査票は、大学生活、勉強、基礎ゼミに関する部分に分かれている。

3.2　結果と考察

以下、質問と共に集計結果を示す。

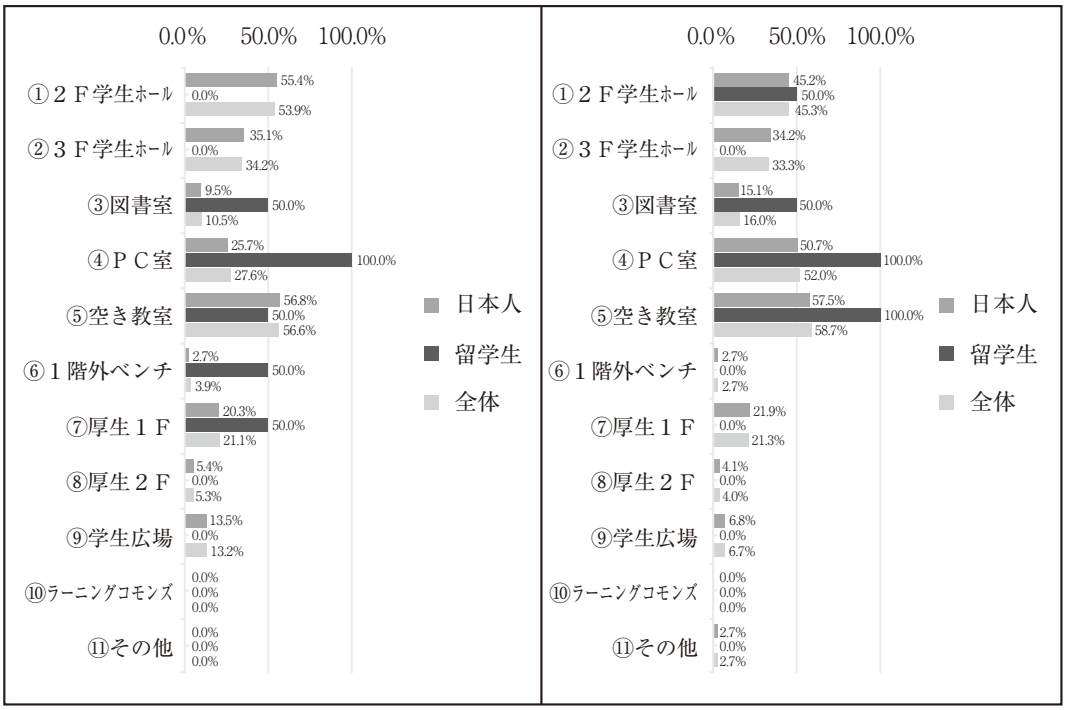
3.2.1　大学生活について

1）宇都宮共和大学に、１週間にどのくらい来ますか？

表１

学期	春				秋			
登校日数	0～1 日	2～3 日	4～6 日	毎日	0～1 日	2～3 日	4～6 日	毎日
日本人	0(0.0)	0(0.0)	74(100)	0(0.0)	0(0.0)	1(1.4)	66(90.4)	6(8.2)
留学生	0(0.0)	0(0.0)	1(50.0)	1(50.0)	0(0.0)	0(0.0)	2(100)	0(0.0)
全体	0(0.00)	0(0.0)	75(98.7)	1(1.3)	0(0.00)	1(1.3)	68(90.7)	6(8.0)

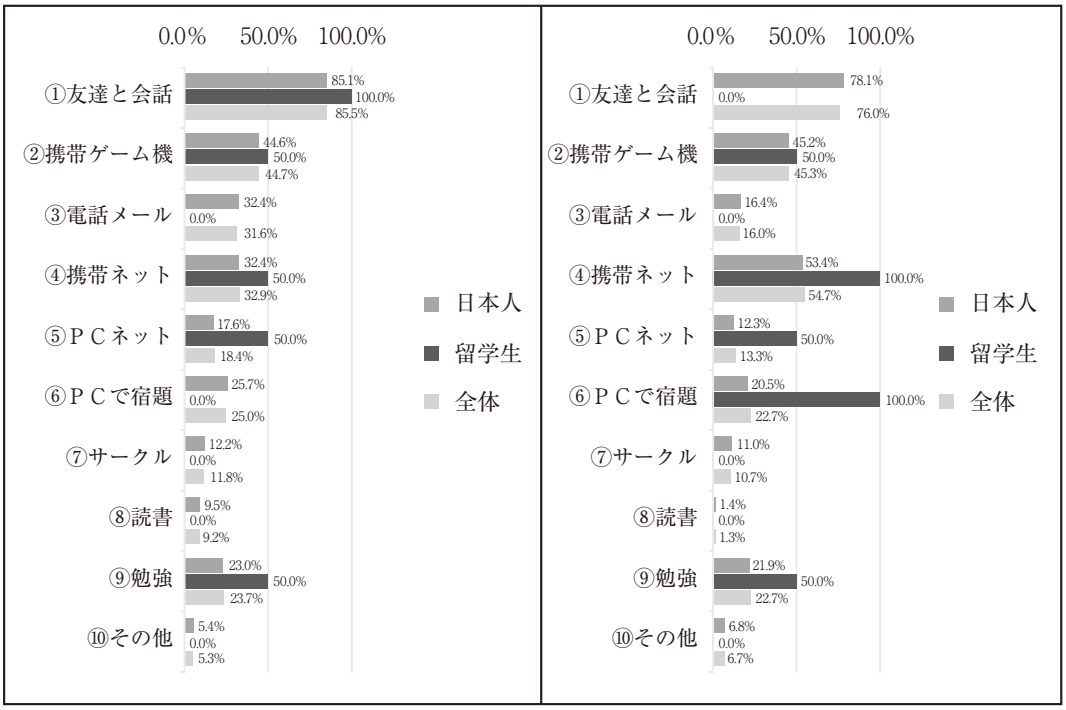
2）宇都宮共和大学では、授業中以外は主にどこにいますか。よくいる場所を３つ選んでください。



春学期　　秋学期

図１

3）宇都宮共和大学では、授業中以外は主に何をしていますか。よくしていることを３つ選んでください。



春学期　　秋学期

図２

4）宇都宮共和大学での学生生活の中で、楽しいと思うことは何ですか。当てはまるもの全てに〇をつけてください。

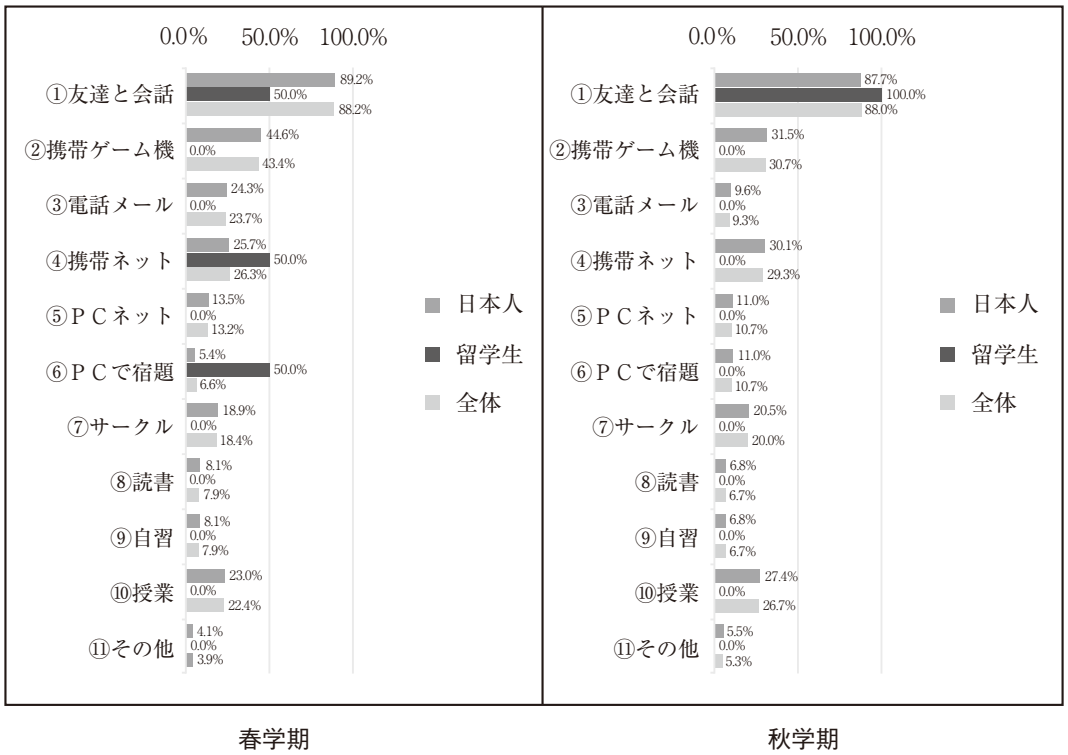


図３

5）あなたの今の生活の中で、重要だと思うことは何ですか。当てはまるもの全てに〇をつけてください。

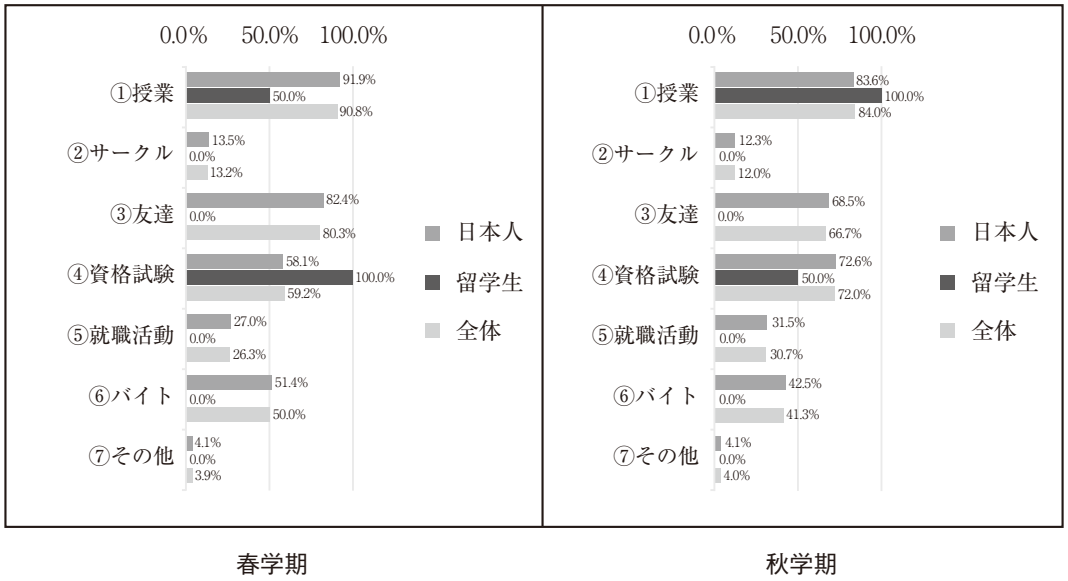
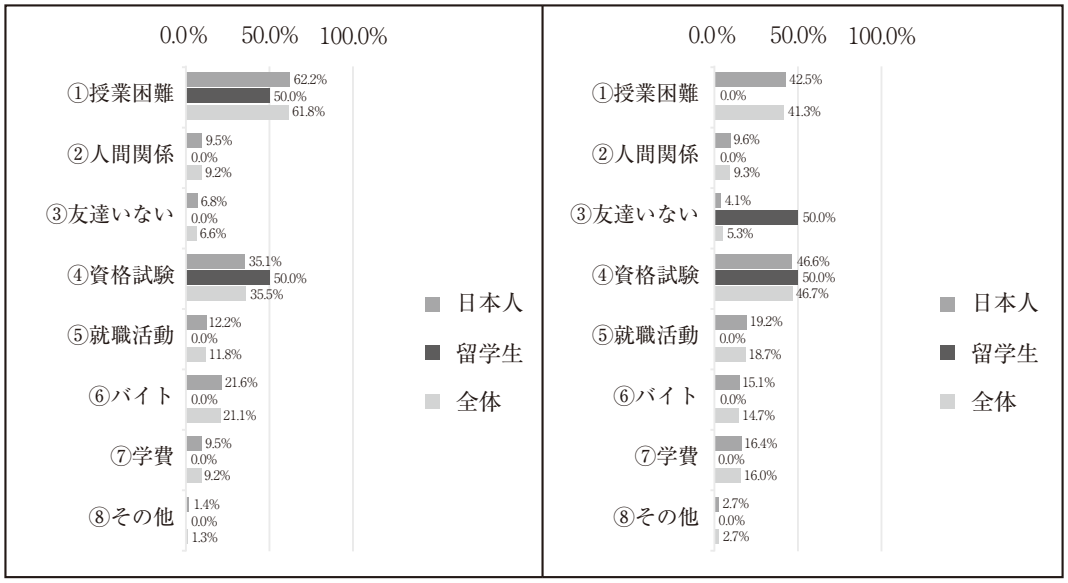


図４

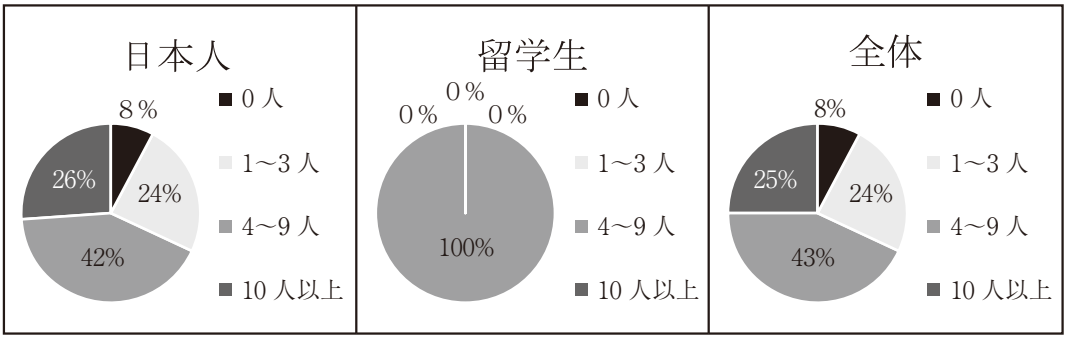
6）宇都宮共和大学での学生生活の中で、困っていることがありますか。当てはまるもの全てに〇をつけてください。



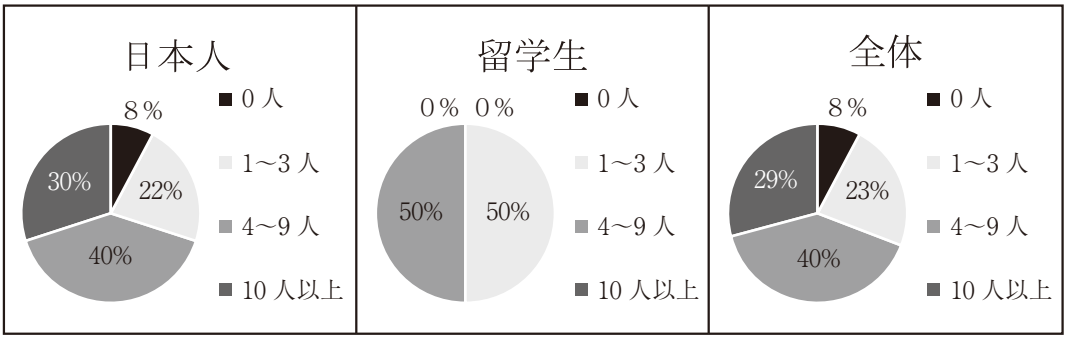
春学期　　秋学期

図５

7）宇都宮共和大学に入って、友達がどの位できましたか？



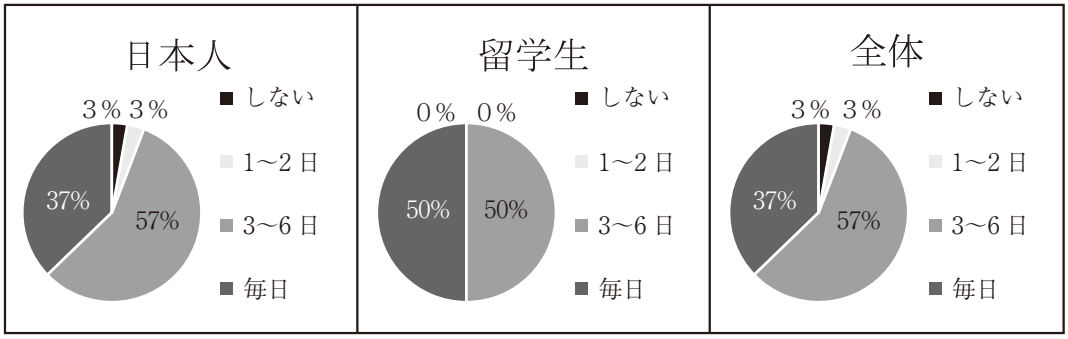
春学期



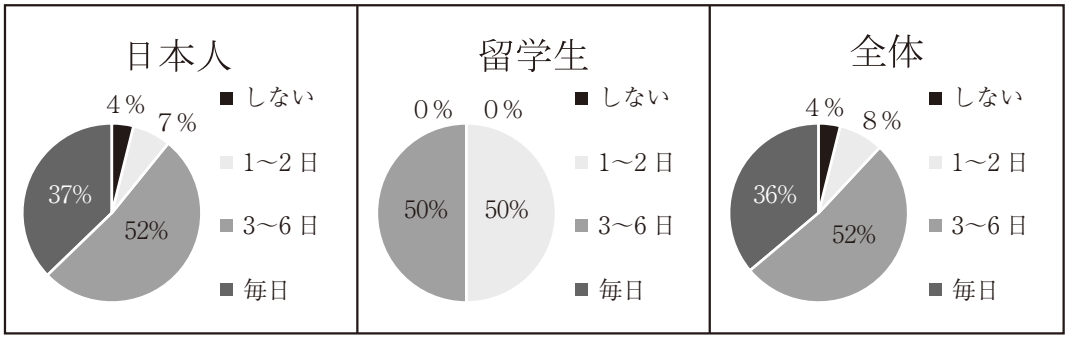
秋学期

図６

8）宇都宮共和大学の友達と１週間にどのくらい話をしますか？



春学期

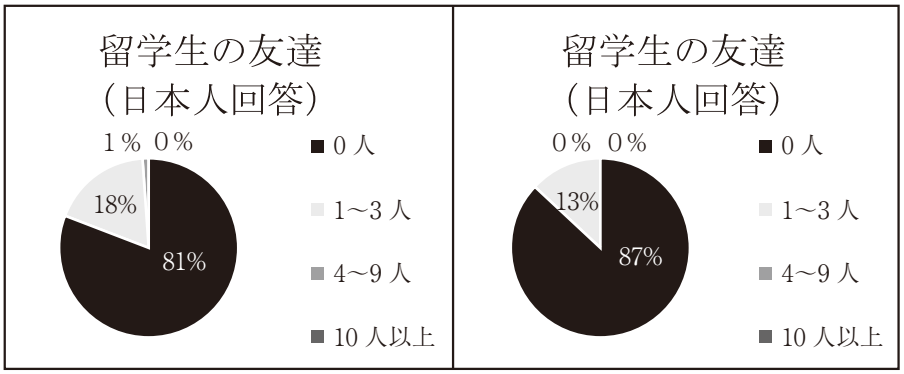


秋学期

図７

＜９）10）は日本人学生への質問です＞

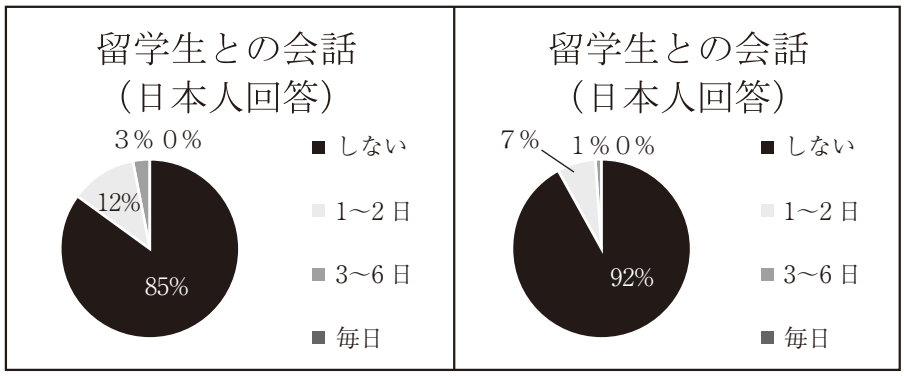
9）宇都宮共和大学に入って、留学生の友達がどの位できましたか？



春学期　　秋学期

図８

10）宇都宮共和大学の留学生と１週間にどのくらい話をしますか？

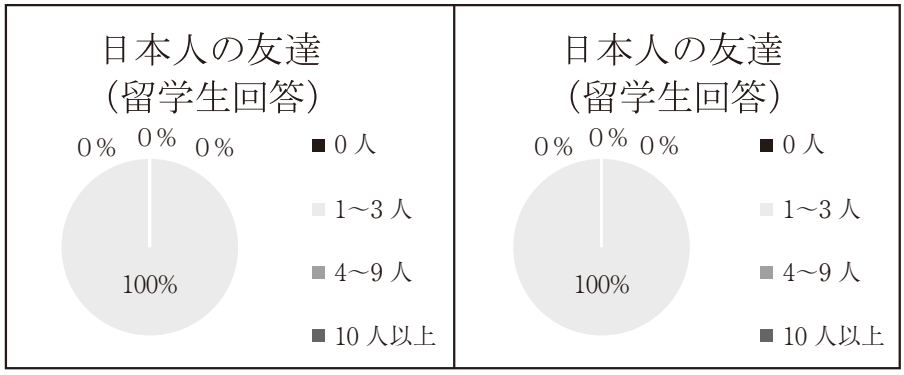


春学期　　秋学期

図９

＜ 11）12）は留学生への質問です＞

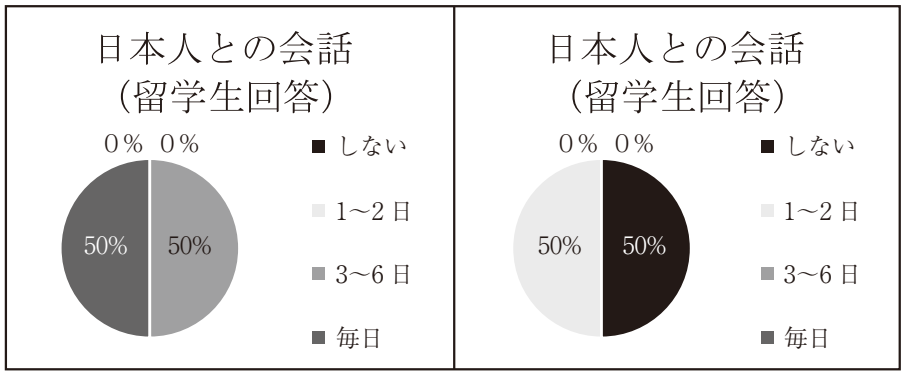
11）宇都宮共和大学に入って、日本人の友達がどの位できましたか？



春学期　　秋学期

図10

12）宇都宮共和大学の日本人学生と１週間にどのくらい話をしますか？



春学期　　秋学期

図11

質問1）は通学の回数であるが、週に４～６回が春学期98.7％、秋学期90.7％となった。秋学期は「毎日」と回答した学生も8.0％いた。質問2）は学生の居場所であるが、例年「2F学生ホール」が最も多いのだが、今年度は春学期秋学期共に「空き教室」が最も多くなった。これは新型コロナウイルス感染対策のために、２F学生ホールのテーブルをパーティションで区切ったこと、椅子の数を減少させたことが要因として考えられる。２F学生ホールでは友人と隣り合って話すことができないため、教室にそのまま残ったり、空き教室に移動したりしていると考えられる。また春学期から秋学期にかけて「PC教室」の増加が見られた。これは例年見られる現象だが、PCを用いた課題への取り組みが多くなったためと考えられる。また、「ラーニングコモンズ」の利用状況は０％となっているが、これは新型コロナウイルス感染対策として利用を中止しているためである。

質問3）は、授業以外では何をしているのかを聞いたものである。例年同様、全体では春学期秋学期共に「友達との会話」が最も多かった。次いで「携帯ゲーム機」「携帯でインターネット」が多かったのも例年同様である。「サークル活動」が全体では、春学期11.8％、秋学期10.7％となり、昨年度の春学期０％、秋学期4.9％よりも高くなった。昨年度は新型コロナウイルスの影響で学期当初は遠隔授業になったこと、またサークル活動自体が自粛されたことが影響したが、今年は感染症対策を徹底したサークル活動というものが形作られてきたためと考えられる。

質問4）は、生活の中で楽しいと感じることを聞いたものである。全体としては、春学期秋学期共に、「友達と会って話すこと」が最も多く９割近くになった。「サークル活動」の項目については、全体で春学期18.4％、秋学期20.0％となり、昨年度春学期2.4％、秋学期16.4％より高い割合になっている。これは質問3）の箇所でも述べた通り、コロナ禍の中でのサークル活動という形ができつつあることだと考えられる。

質問5）は、生活の中で重要なことを聞いたものである。例年同様、全体では「授業」、「友達との付き合い」、「資格試験の勉強」が高かった。特に資格試験については、春学期59.2％から秋学期72.0％と増加しており、年間を通じて資格試験の重要性を感じることになったと見える。「バイト」は、春学期50.0％、秋学期41.3％となり、多くの学生が生活の中で重要な項目として挙げている。

質問6）は、生活の中で困っていることを聞いたものであるが、例年同様「授業が難しい」が最も多くなった。しかし、これも例年同様であるが、春学期全体61.8％から秋学期41.3％と減少している。「資格試験」については質問5）と連動するが、春学期35.5％から秋学期46.7％に増加し、資格試験の重要性と困難さを同時に感じていると見られる。

質問7）、8）は、友達がどの位できたか、1週間にどの位話をするかを尋ねたものである。殆どの学生は本学に入学してから新たな友人ができているようだが、友達の数が「0人」と答えた学生が春学期秋学期共に８％見られた。また、1週間に友達と全く話をしない学生も春学期３％、秋学期４％見られた。これは自由記述にも見られたことだが、系列校以外からの入学者は孤独を感じやすく、しかもコロナ禍により自由に話し掛けたり

することができずに一層孤独感が強まっていることの表れと考えれる。そのような学生に対しては、これまで以上に親身なケア（個人面談等）が必要だと思われる。

質問9）～12）は、日本人は留学生の友人ができたかどうか、留学生は日本人の友人ができたかどうかを聞いたものである。日本人学生の中で留学生の友達がいない割合は、春学期81％、秋学期87％となっており、例年に比べ非常に高い割合になった。これは、2021年度入学の留学生が２名と少なかったことが影響していると考えられる。入学予定者は他に３名いたが、コロナ禍による新規入国外国人に制限が設けられたため入国ができなかった。政府は2022年３月１日より新規入国外国人の制限緩和を始めたが、本稿を執筆している３月４日時点でも本学入学予定者の入国の目途は立っていない。2021年度に入学が叶わなかった３名が2022年度には入学が果たせるように留学生担当としても尽力していきたい。

次に大学生活に関する質問（①宇都宮共和大学に入って良かったと思う　②大学生活に満足している　③大学生活は楽しい　④大学生活は役に立っている　⑤大学の施設・設備に満足している　⑥大学周辺の環境に満足している　⑦大学の授業に満足している　⑧大学の授業は楽しい　⑨大学の授業は役に立っている　⑩大学の授業は難しい　⑪教員の教え方や対応に満足している）の結果を示す。これらの質問については、５段階評定法（１全然そう思わない、２あまりそう思わない、３どちらとも言えない、４少しそう思う、５とてもそう思う）により回答を得た。

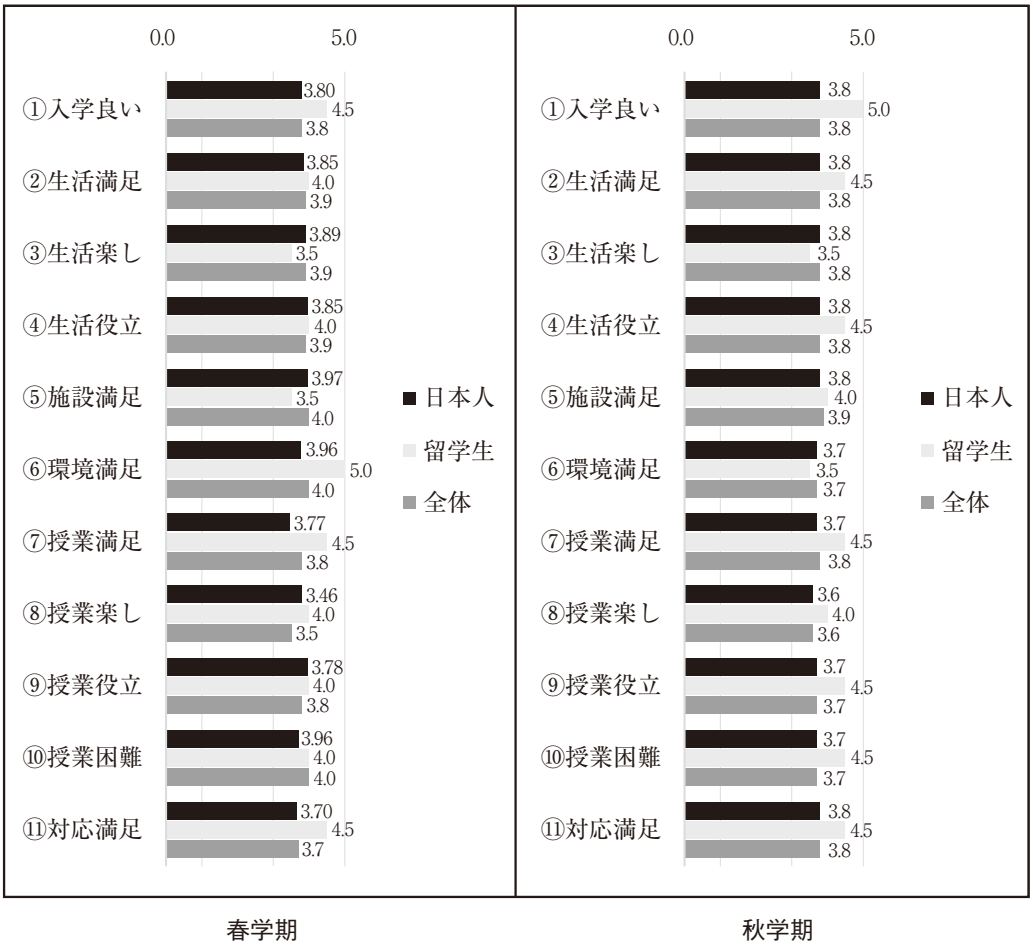


図12

まず、質問１の「入学して良かった」については、全体で春学期3.8、秋学期3.8で昨年度（春学期3.8、秋学期3.9）と同様の数値になった。今回の調査において全体で4.0を超えた項目は、春学期の⑤施設に満足している、⑥環境に満足している、⑩授業が難しいと思う、の３つであった。授業の困難さについては秋学期には3.7と低くなったが、１年生の春学期から大学の授業に対応できるように指導をしていく必要があろう。

次に、大学生活、大学の施設、授業、教員の対応などについて、不満な点、意見等を回答してもらった結果を示す。なお、回答方法は自由記述によった。

【自由記述】

＜日本人学生：春学期＞

・十分な指示がないまま課題を提出する際、指示がなかったことを言われ、評価を下げられた。○○（科目名）

・「○○（科目名）」は本当に意味が分からない。話を聞いているとイライラする。「○○（科目名）」は休講、補講ばっかりで嫌だ。話し方が嫌い。自分が偉いみたいな話し方。

・学食について、この前利用した時、メニューが少ないなあと思いました。もう少し増えるといいなあと思っています。

・大学の教員は急しそうで（ママ）相談しにくかった。

・入門や基礎の授業が専門過ぎていたこと。スライドを移動させるのが早い。○○（科目名）

・○○（科目名）の○○先生の授業が分かりにくい。○○（科目名）の知識が不十分な自分たちに「わざと間違えた」などと間違った答えを板書してくる。

＜日本人学生：秋学期＞

・対面で出来ていることは満足しているが、リモート授業も体験してみたかったなと思った。

・アルコール消毒液を全ての教室や施設の入り口に設置してほしい。

・学食のメニューを増やしてほしい。自動販売機の飲み物をもう少し安くしてほしい。

・もっとしっかり１年生と面談とかした方がいいと思いますよ。県立から来た学生生徒は１人ぼっちですごく自分も相談できる人がいなくてツラかったです。

・施設内が寒いことが多々ある

・ラウンジのトイレの流水音が流れないので、直していただきたいです。

・トイレに紙のタオル（ペーパータオル）おいてほしいです。

・自家用車での通学が難しいため交通費が大きい。防音室を利用したいが誰かがすでに利用していることが多くルールなどをきめてほしい。

・駐車場がない

・講師によってパワーポイント・クロームブックを使用しないので理解できる授業がバラバラ。

・授業での不安はないが、席替えをランダムにしてほしい
・先生がずっと話している授業だと眠くなる。
・レポートの説明をもう少し具体的にしてほしい。

以上のような意見が見られたが、特定の科目についての意見については教員自らが襟を正す必要があろう。一部の少数の意見だとしても、そのような声がある限り教員として対処することが求められよう。また、上記に述べたことであるが、コロナ禍においては附属校以外の学生に対するケアが一層必要と思われる。定期的な相談窓口以外にも学生が気軽に話ができる環境づくりが必要なのではないだろうか。

3.2.2　これからの勉強について

「これからの勉強について」は、10項目の質問（①自分の関心がある専門分野を集中的に勉強したい　②できるだけ様々な分野を広く勉強したい　③履修科目は、自分の興味関心で決めたい　④履修科目は、卒業要件を満たせば良い　⑤資格試験などに積極的に取り組みたい　⑥大学院進学に向けて勉強したい　⑦授業の単位を一つでも多く取りたい　⑧出来るだけ良い成績で単位を取りたい　⑨積極的に大学の施設などを利用していきたい　⑩　積極的に先生に指導を受けたい）を設置した。回答は、５段階評定法（１全然そう思わない、２あまりそう思わない、３どちらとも言えない、４少しそう思う、５とてもそう思う）によった。

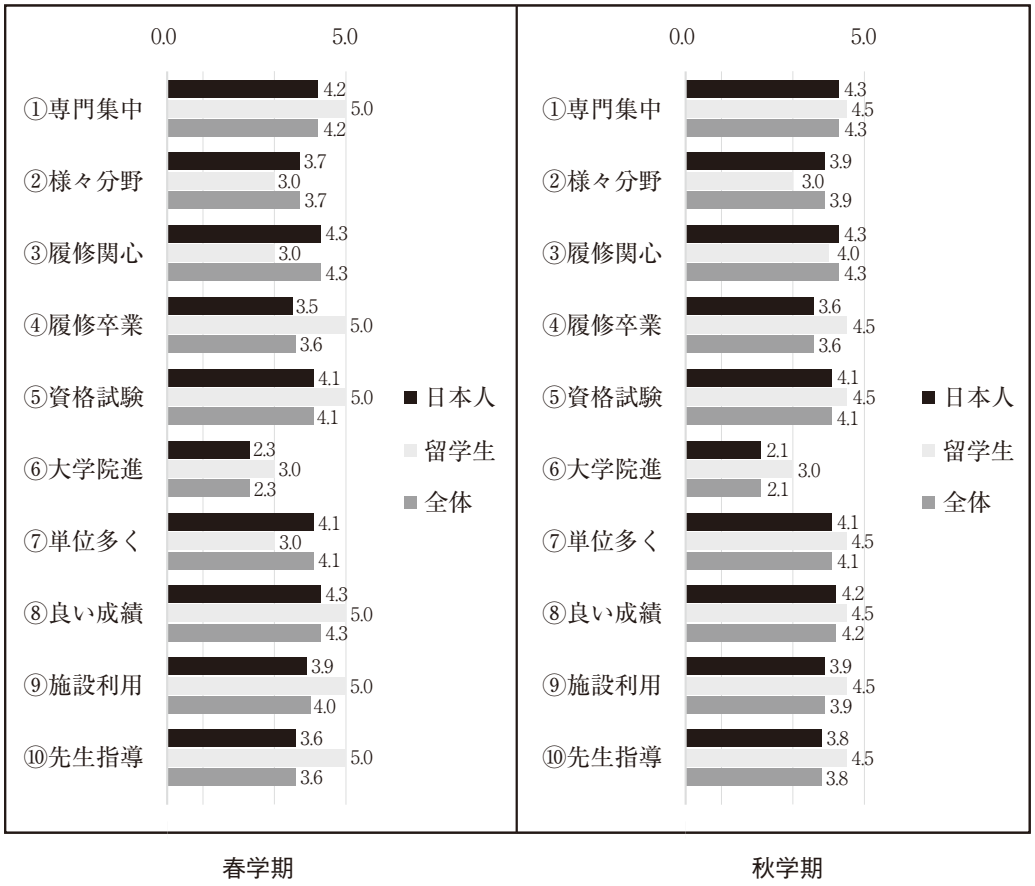


図13

まず、全体の結果を見ると、春学期は質問１、３、５、７、８、９、秋学期は質問１、３、５、７、８が4.0を超えた。これは昨年と同様の傾向であり、自分の興味関心に合わせて専門的に勉強したいという学生が多いことが分かる。

3.2.3　基礎ゼミについて

基礎ゼミについては､基礎ゼミ全般について（春学期と秋学期共通項目）11の質問（①基礎ゼミは楽しかった　②基礎ゼミは役に立った　③基礎ゼミを通じて友人ができた　④基礎ゼミは少人数に分けられていて良かった　⑤基礎ゼミでのグループでの話し合いは楽しかった　⑥週間日誌を書くのは役に立った　⑦週間日誌を書くのは面倒くさかった　⑧作文を書くのは役に立った　⑨作文を書くのは面倒くさかった　⑩週間日誌、作文を教員がチェックするのは良かった　⑪対面での授業は良かった）を設置した。

2020年度と同様に、2021年度は作文のテーマについての質問を設けた。春学期の作文テーマは「自己紹介｣､｢高校時代の思い出｣､｢私の親友｣､｢私の名前の由来｣､｢私の自慢｣､｢私の趣味｣､｢今までで一番ラッキーだったこと｣､｢春学期の総括」の８つ､秋学期は「私の春学期と夏休み」、「私の長所と短所」、「私の宝物」、「私の好きな本」、「私が感動した映画」、「もし生まれ変わったら」の６つである。

また、基礎ゼミのテキストと合同講義について春学期５項目（①テキストは良かった　②アカデミックスキル「ノートテイキング」は良かった　③「キャンパス周辺ツアー」は良かった　④発表「キャンパス周辺の○○の場所」は良かった　⑤アカデミックスキル「レポートの書き方」は良かった)、秋学期５項目（①テキストは良かった　②夏休み課題発表「私の○○の場所」は良かった　③大学祭展示は良かった　④レジュメを作成して発表したのは良かった　⑤最終発表「これから研究したいこと」は良かった）を設置した。

以上の設問回答は、５段階評定法（１全然そう思わない、２あまりそう思わない、３どちらとも言えない、４少しそう思う、５とてもそう思う）によった。

【基礎ゼミ全般について】

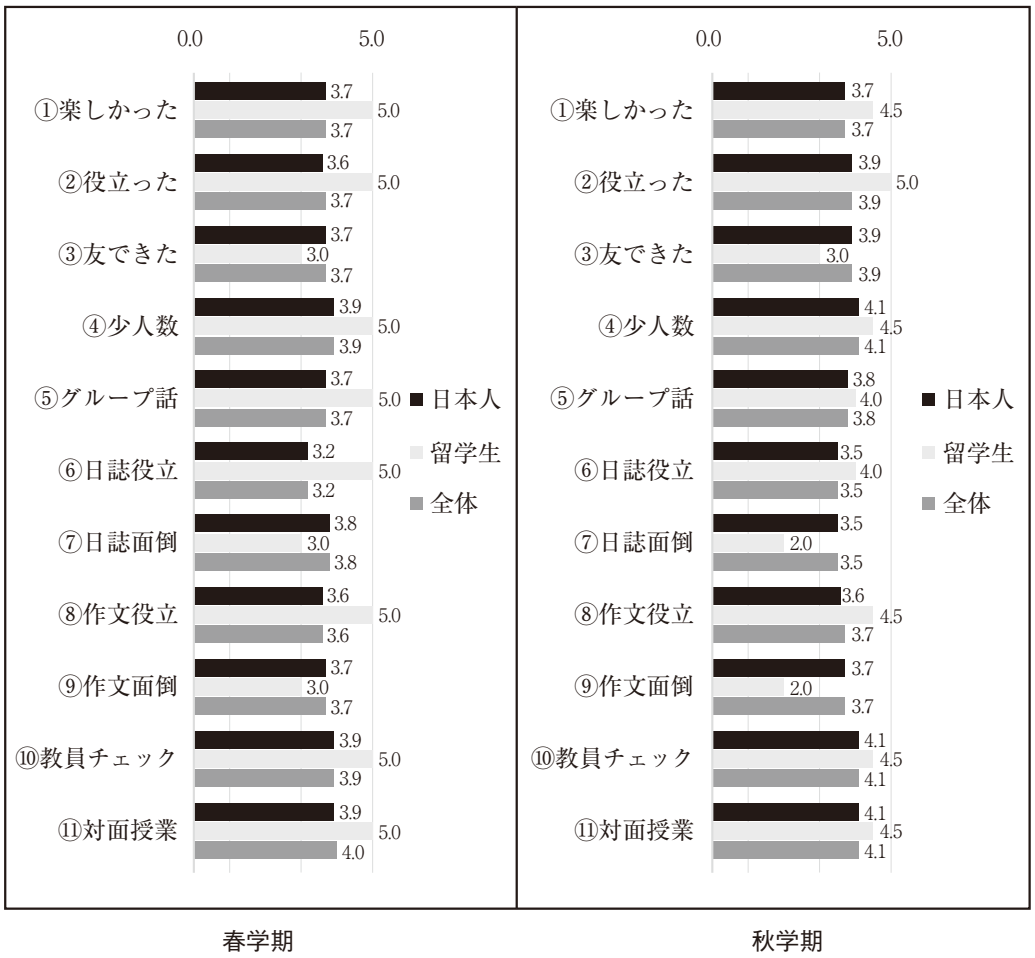
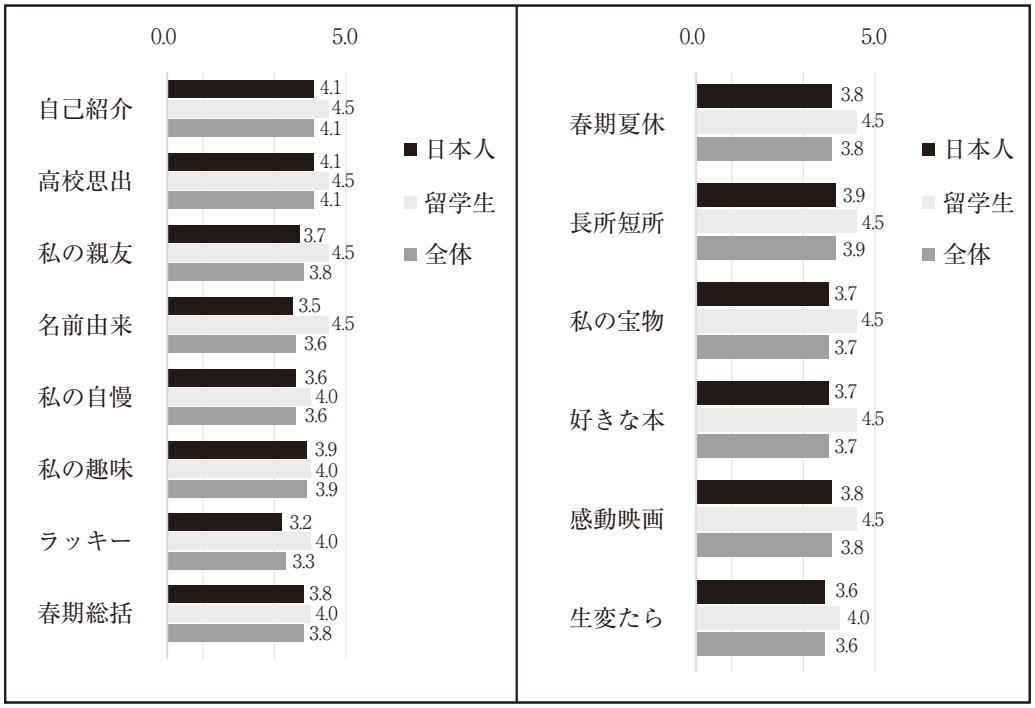


図14

まず、全体で4.0を超えたものは、春学期は⑪対面授業、秋学期は④少人数制の授業、⑪対面授業であった。昨年度は、コロナ禍においてグループ活動を取り止めたこと等が影響し、4.0を超えた項目は全く無かったが、今年度はコロナ禍における授業形態に学生も教員も良い意味で慣れてきたと考えられる。また、こうした状況において対面で授業を行えたことは学生にとってもプラスと感じられた表れと見える。日誌、作文については、例年評価が芳しくないが、今年度も同様であった。クロームブック導入と同時に日誌、作文についても電子化を進められなかったことが反省点である。

【作文テーマついて】

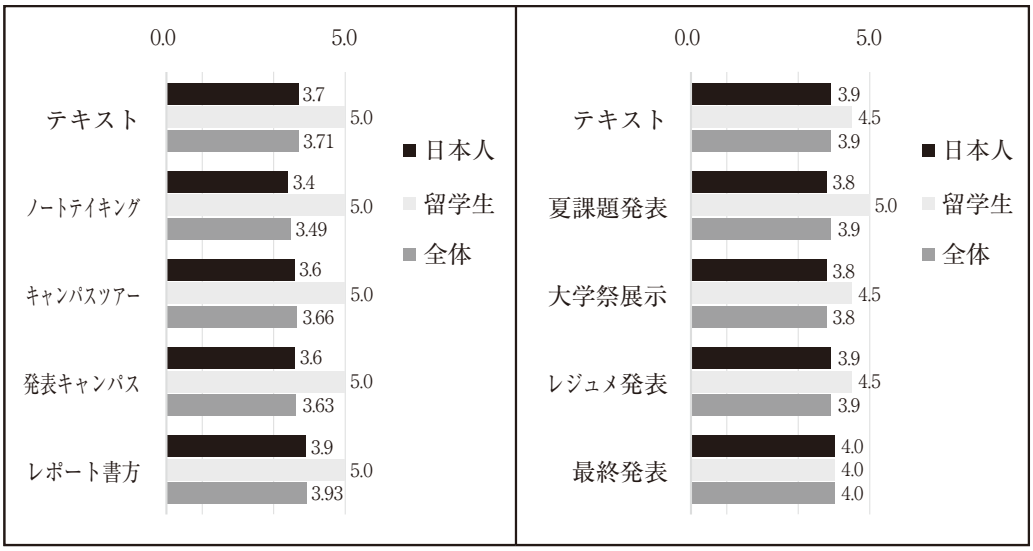


春学期　　秋学期

図15

作文のテーマについては、2020年度同様にテーマによる評価の高低は殆ど見られなかった。先にも述べたが、クロームブックの導入により作文も電子化することを来年度の課題の一つとしたい。

【テキストと合同講義について】



春学期　　秋学期

図16

「テキスト」については、全体の評価が春学期3.7、秋学期3.9であった。テキストは後半難しくなるが、春学期よりも評価は高かった。発表については全体的な評価は高くないが、自由記述にもある通り発表の機会があることを評価している学生もいる。人前で話すことに対する得手不得手はあろうが、学生たちの社会人基礎力養成のためにも発表の機会は設けていきたい。３回の発表は単位取得のための必須項目としているが、中でも最終発表は今年度から１人３分の時間を取りスライドを作成させて発表を行った。最終発表については全体の評価も4.0となっており、ある程度評価を得られたものと考えている。次に、基礎ゼミについての要望や意見を示す。なお、回答方法は自由記述によった。

＜春学期：日本人学生＞

・初めての大学生活の中で大学ではどういう所かを細かく教えてくれたのでとても助かりました。

・テキスト『プレステップ基礎ゼミ』にのっている情報は古く、時代に合っていない点がいくつかあった。

・同じグループで話し合うよりも違うグループで話し合いたい。

・もっといろんな人と話せるグループ活動がほしかった。

＜秋学期：日本人学生＞

・研究について触れるならもっとしっかりと教えるべきだと思う。

・特に秋学期は自由に発言しやすく楽しかったです。基礎ゼミを通して友達や話せる人ができ、とても良かったなと感じました。

・最終発表については前年度等の参考にできるものが欲しかった。

・週間日誌書くことがなくて大変でした。先生からのコメントとかあったら、もっと良かったと思う。

・発表の資料作りや実際の発表がとても良い経験になったと思いました。１年を通してとても楽しい授業でした。

・もっとゆっくり時間をかけてプレゼンを作成し、１カ月ぐらい発表期間を作ってやるべきだと思います。

・プレゼンテーションを基礎ゼミと情報リテラシーを通じ４回やった。しかし「これから研究したいこと」については自分の番まで誰もタイムオーバーしていなかったが自分がオーバーしてしまった。内容をわかりやすく短くまとめる様に努力していきたい。

・発表する機会があってよかった。

以上のように最終発表に関する記述が複数見られた。2021年度の最終発表はこれまでになかった試みであり、学生たちが参考にすべき資料や先輩たちからのアドバイスというのもなかったが、来年度からは見本となるような発表を学生たちに示していきたい。

４　まとめと今後の課題

2021度の基礎ゼミではコロナ禍が続く中、感染症対策を徹底しつつ学期当初より対面授業を行った。ソーシャルディスタンスを取り、教室の換気を徹底してグループワークを行った結果、コロナ前とは比較にならないが、それでも一定の教育効果は得られたのではないかと思う。また、2021年度はクロームブックを１年生全員に配布し、教材のデジタル化が図られたが、基礎ゼミにおいてはグーグルクラスルームを用いて教材をアップロードした以外では活用することができなかった。来年度は、これまで紙面で提出させてきた週間日誌とワークシートの電子化に取り組んでいきたい。

コロナ禍が２年を経過したが、未だ収束する兆しは見えない。大学教育も様変わりしたが、今後も変化は継続していくだろう。いかなる状況であっても学生たちに質の高い教育の機会が与えられるように、尽力していきたいと考えている。

【参考文献】

川廷宗之・川野辺裕幸・岩井洋編（2011）『プレステップ基礎ゼミ』弘文堂

松田勇一（2017）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題（8）－平成28年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第18号

松田勇一（2018）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題（9）－平成29年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第19号

松田勇一（2019）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題（10）－平成30年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第20号

松田勇一（2020）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題（11）－2019年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第21号

松田勇一（2021）「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題（12）－2020年度「基礎ゼミ」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学シティライフ学論叢』第22号

謝辞：2021年度の基礎ゼミでは、本学の田部井伸芳教授、大石和博教授、北浦さおり准教授、今喜史専任講師、渡邉瑛季専任講師には、円滑な授業運営・クラス活動のためご協力をいただき、また毎回の教師ミーティングの際にはご助言をいただきました。ここに心から感謝申し上げます。